

倫理調整を行う在宅看護専門看護師の役割

看護学部

やすだあつこ
○助教 安田温子

キーワード

在宅看護, 倫理調整, 専門看護師



研究概要

2025年には約800万人の団塊の世代が後期高齢者となり、国民の4人に一人が後期高齢者となります。超高齢社会の進展にそなえて、疾患を持ちながら在宅で過ごす療養者や、在宅看取りの増加等の社会のニーズに対して、高い水準の在宅ケアを提供できるよう、2012年に在宅看護専門看護師認定が開始されました。在宅看護では生活者としての療養者や家族の思いを尊重することが非常に重要となり、倫理調整には高いスキルが求められています。訪問看護師を含める地域でケアに従事している医療職、福祉職が倫理的問題に直面したときに、在宅看護専門看護師の支援を受けて効果的に倫理調整できるしくみ、風土づくりが必要と考え、倫理調整を行う在宅看護専門看護師の役割について検討することにしました。

在宅看護専門看護師8名に、現在の倫理調整に至るまでの役割の開発の経過についてインタビューを行いました。類似した意見を抽出してカテゴリ分類をした結果、

- 【倫理的課題を共有し勉強会で働きかける】
- 【普段の在宅ケアでかかわる中で熱意のあるひとに働きかける】
- 【何かうまくいっていないなという事例の一つ一つにかかわっていく】
- 【倫理的課題があることを事例の中で認識してもらえるように言語化する】
- 【自分の役割を認識してもらうように働きかける】
- 【コミュニケーションを取りやすい風土をつくる】がありました。

在宅看護専門看護師の倫理調整は療養者、家族の意向に沿った療養生活の実現に向けて役割を発揮することを求められるため、さまざまな技法を用いてチームに働きかけることで倫理調整が行われていることがわかりました。

アピールポイント

倫理的問題解決ができる支援体制の構築は、訪問看護師を含める地域でケアに従事している医療職、福祉職の支援につながります。また、訪問看護師のケアの質向上がもたらされ、地域住民の在宅看護に対する安心感・生活の質向上につながることを期待されます。在宅看護の受け入れ態勢が進み、在宅での看取りが増加することで、どこで終末期を迎えるかという家族が抱える課題解決の一助となると考えます。

在宅看護専門看護師が現在行っている役割を、訪問看護師を含める地域でケアに従事している医療職、福祉職に情報提供することは、倫理的問題に直面する訪問看護師の支援の一助になると考えます。今後、訪問看護師の看護倫理における学習支援方法を検討して、地域の訪問看護ステーション管理者の支援、教育プログラムの作成へつなげることを検討していきたいと思っております。